

但當人ヨリ返納致シ兼候ハ、親類ヨリ償却可致事

第三條

三ヶ年ノ御扶助滿期ノ後翌四ヶ年目ヨリ以後ニ除籍
スル者ハ前条ノ通地所奉還ノ上御扶助代金積ノ三分
ノ一返納可致事

但二条ニ全シ

右ノ通確定候事

明治六年八月

開拓使

内閣書記官

甲 第六拾貳号

雇外國人宿代并旅費改正ノ儀伺

當使雇外國人宿代并旅費規則ノ儀十二年六月

乙第六拾九號ヲ以上申候處實際牒牒ノケ條モ

有之候ニ付別記ノ通更正本年四月一日ヨリ施

行仕度候條至急御允裁相成度此段相伺候也

明治十四年三月十八日 開拓長官黒田清隆

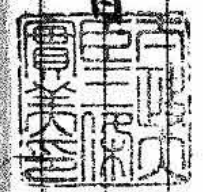


太政大臣三條實美殿

伺ノ趣聞届候事

明治十五年一月十四日

申一三



開拓使

公務ニ付陸路六里以上旅行野業或ハ別ノ節、一功ノ

諸費食料荷物運賃其他旅行ニ係

ニ旅行手當ヲ給ス十里未満、里数ハ一里毎二十分一

ヲ給ス一里以内ハ計算セス

但シ在勤地ヨリ片道三里未満、地ニ至ル旅行ニ

シテ日帰ナレハ旅費ヲ給セスト雖モ滞在スル片

ハ一泊毎ニ滞在日當ヲ給シ片道三里以上六里未

満ハ日帰一泊、別々ニ往返ニテ巡回日當ヲ給シ

滞在スル片ハ第四條ニ準シ滞在日當ヲ給スヘシ

且出張先滞在中片道三里以上、地へ派出ノ節モ

右ニ準シ巡回日當ヲ給ス尤三里未満ノ地へ全断

ノ節ハ滞在日當、外一功給與セス

第四條

公務ニ付旅行中及出張先ニテ御用滞在中ルキハ到着

及發足ノ日ヲ除キ日數ニ應シ表面ノ通滞在日當ヲ給

スヘキニツキ宿泊所ハ本人自ラ定ムベシ若シ病氣ニ

テ滞在スルキハ医師ノ診断書支川支等ニテ滞在ス

ルキハ其地戸長ノ證書アラハ亦本文ノ通支給ス

但雇入條約締結後札幌其他在勤ノ地へ赴任前東

京滞在中モ本條ニ準ス尤東京ニ限り時トシテ開

拓使ノ都合ニ因リ命令スル所ニ宿泊セシムルノ

時ハ片ハ賄料ヲ該宿泊所ニ給スルニツキ滞在日

當ヲ給セス外ニ手當トシテ月給高ニ拘ハラス一

日金五拾弍ヲ給スベシ

第五條

東京横濱及札幌手帳間ノ汽車賃ハ表面ノ通支給シ時

ニヨリ一日ニ往來シ又ハ二日ニ往來スルトモ日數ニ
應シ別ニ賄料トシテ滞在日當ノ額ヲ給ス若到着ノ上
滞在アラハ滞在日當ヲ給ス

第六條

工術師其他受持ノ区内ニアリテ野業或ハ測量ニ従事
スル間ハ一切ノ費用トシテ滞在日當ヲ給スベシ尤該
業従事中其事業ノ都合ニヨリ一里以上ノ地外ヲ論セ
ハ居住ヲ轉スルキハ滞在日當ヲ給セス巡回日當ヲ給
ス即日事業ヲ施ストモ別ニ日當ヲ給セス六里以上ハ
第三條ニ準ス

第七條

工術師其他受持ノ区ヲ定メテ測量ニ従事シ其他公務
ニ付巡回スルキハ里程ニ拘ハラズ日數ニ應シ巡回日

當ヲ給スルモ七旅宿ヨリ其事業ノ場所へ派出シ又ハ
巡回スルモ其帰ル程ハ拘ハラズ滞在日當ヲ給ス

第八條

公務ニ付海路旅行ノ節ハ現船賃及賄料ヲ給シ別ニ荷
物運賃解賃其他諸雜費トシテ航海中在船日數ニ應
シ滞在日當ノ額ヲ給シ後着ヲ召連ルキハ一名ヲ限リ
下等船切子ノ賃錢ノミヲ給ス尤モ一日晝夜間ヲ拘ハラス
ニ滿サル航海ハ滞在日當ニ半額ヲ給スベシ若シ船待
ノ為メ滞在スルハ又ハ航海中船ノ都合ニヨリ寄港シ
其碇泊中上陸滞留スルキハ船中上陸ノ際滞在日當ヲ給

但船賃ハ証書ヲ添へ詳細勘定書ヲ以テ申請スベ
シ

第九條

職務上ニ要スル器械類ノ運送賃ハ官有私有ノ別ナク
現費支給スルモノトス但シ證書ヲ添ヘ詳細勘定書ヲ
以テ申請スヘシ證書之ナキ分ハ一切給セサルベシ

第十條

昼夜急行急行スルヲ兼テハハ第三條ニ準シ急行ノ日当ヲ給
ス急行スルモ亦全額

但並旅行ヨリ昼夜急行ニ轉スル如キハ總里數ヲ

十里毎ニ区分シ其十里ノ内互ニ相跨ル里數ハ總

テ旅費額ノ多キ方ヲ以テ支給スヘシ十里未滿ノ

旅行モ亦之ニ準ス

第十一條

此規則ハ明治十四年四月二日ヨリ施行シ更正等ノ布

令ナキ間ハ実施スルモノトス

雇外國人宿代並旅費表

月給高	壹月宿代	並旅行	昼夜急行	滞在日	巡回日當	乘船等級	東京横濱及札幌 小樽間此道旅費
金百圓未満	於 圓	三 圓	三圓八於美	壹圓六於美	貳 圓	中 等	九 於 美
金二百圓以上 金二百圓未満	於 五 圓	五 圓	六圓三於美	貳 圓	三圓六於美	上 等	壹圓貳於美
金三百圓以上 金四百圓未満	貳 於 圓	七圓六於美	九圓四於美	貳圓六於美	四圓六於美	上 等	壹圓五於美
金四百圓以上	三 於 圓	於 圓	於 貳 圓 三	三 圓 六	四 圓 上	等	貳 圓

但乘船等級ハ船賃ノ三ニアラズ賄料ヲモ
供給スヘキモノトス

内閣府 第二二号

甲 第拾三号

當使平民栖原小右衛門賞與ノ義ニ付伺
 當使管下渡島國津輕郡福山小松前町平民栖原
 小右衛門義先代ヨリ引續キ北海道及樺太州於
 テ漁業ニ從事各所漁場ヲ新開シ該業ノ餘贏ヲ
 以テ夙ニ國益ヲ計リ民利ヲ興ス事ニ注意シ千
 島國擇捉島沿海ノ道路ヲ修築シ天塩國留萌郡
 嶮難ノ山道ヲ開鑿シ人馬運搬ノ便ヲ謀リ又兩
 郡旧土人ニ資金ヲ貸付シテ各自獨立營業ノ途
 ニ就カシメ留萌郡ノ如キハ從來飲水不良ナル
 ヲ以テ深山ヨリ良水ヲ引テ住民ノ飲用ニ充タ
 シノ或ハ舊松前藩士族授産ノ為ニ有志者ト謀
 リ桑苗數萬株ヲ培植マシメ就産ノ一助トシ就

13

甲 一四

開 石 使

開 石 使